

胸痛

一見逃さない，間違えない 診断と専門医紹介のタイミング

胸痛は非常によくみられる症状でありながら多くの疾患と関連している症状である。緊急性の高いものが鑑別疾患に含まれるために，時には即時の対応が求められるし，時に全く重症でない患者を救急扱いしてしまうことも数多くある。胸痛患者の診察には患者の病歴聴取が特に重要で，その後の診断治療の速度感を大きく左右する重要なステップとなる。

本特集では，主に一般内科医がクリニックで遭遇する胸痛という設定で，どのような症状の患者に緊急性があり，救急車で転送を考慮すべきなのか，また緊急ではないが専門医での診察を要するのかなどを，実際現場で診察しているエキスパートの先生に執筆をお願いした。胸痛をきたす疾患は，もちろん心疾患や大動脈疾患など緊急性の高いものもあれば，時に肺や消化器の症状であることもあるため，逆に一般医家の先生の腕の見せどころといった部分もあるかもしれない。しかし，いったん紹介するとなるとある程度のいい形での診断をしたうえで紹介できたほうが，もちろん紹介するほうもされるほうもよい診療が提供できるであろう。実臨床においては，どのような患者を救急車に乗せるかを悩む場面もあるかもしれない。このため，本特集では専門医への紹介の緊急度もわかるような形での特集になるようにまとまりをつけることとした。前半には救急車を呼ぶ必要のある疾患をまとめて特集し，その次にある程度時間的余裕をもって紹介すべき疾患をまとめている。事例も入れてあり，実際の診療に近い形での読み物になるよう心がけたつもりである。本特集が，読者にとって胸痛患者への診療の一助となり，さらなる自信を深めるきっかけになれば幸いです。

北里大学医学部循環器内科学
阿古潤哉